

春は二分の一の速力で、二分の一の道程を
同時に心臓に流くだろう



『故郷を想ふ』

市原武夫

ほど近き丘に立つ。
黎明の狭霧の中に
淡紅色の陽光輝きそめ

暖たかき微風吹けど
故郷の
未だ凍れるを想ふ

四二

それに、私が
九十%の酸素を吐き出す病人だと一層
しゃんだが……………。

断 想

反動に生くるもの—三

岸本眞治

○泥濘を往くつもりで。 — X
○みんな他人だといふ事をこの上も忘れ
ないで、 — X
○『君！僕は豚木の死んだのは病氣の爲
ぢやないと思ふよ。』 X
○呑んで紛らはずか。素面で苦しむか。
どちらだ?!

○自轉車に乗つて、何故そんなに急ぐのか。
お前は！ X
○想ひみな
たがひたらむを
いささかの
ことにかかはり
人を憎める。

—三—三—八

四三